

錦二丁目 新会所・路地

七番(ななばん)見学会



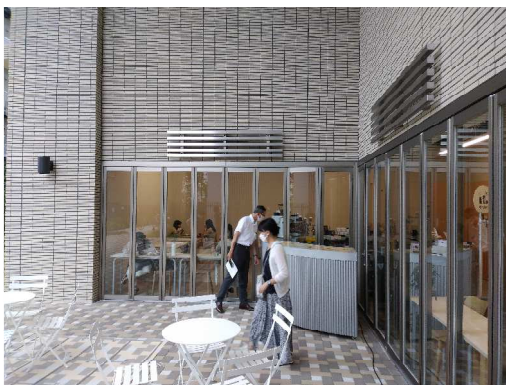
8/27(土) 10~13時、錦二丁目「喫茶・スペース七番」を見学させていただきました。参加者は案内の名畑恵さんを含め6名。16街区の7番地にあり、2004年からこの地域に関わってらっしゃる名畑さん、この付近にはコミュニティーセンターが無くて公民館の役割も担うとのことでした。会所(喫茶テラス席)から4方へ緩くうねった路地が伸びます。はなれ棟との間の路地は上部ルーバー屋根で、木漏れ日の下のような雰囲気です。喫茶・レンタルスペースはマンションの共用部で、はなれ棟は床を購入して店舗を誘致しているそうです(ネイル・洋服・スイーツ、1店舗は誘致交渉中)。コロナ禍で周囲との合意形成がとれなくて絶望の中だったときは、飲食店へ補助金情報(QRコード)をまとめた資料を配布するなどサポートに努めたとのこと。また市認定団体なので、各部会に行政の担当課の方が参加、応援会議(15課程合同)もあるということでした。ラウンジには国内外の絵本棚(延藤文庫)もありました。

喫茶のカウンターは、昔あったアートセンターのフレスコ壁画を再利用してまちの歴史をつないでいたり、歴史的街区を模した床グリッドや椅子がありました。テラス席にはパラソル用のキノが埋まり、キッチンカーを呼んだり、マルシェや映画の上映会等が開催されているそうです。周囲の歩道には、地域のまちづくり活動のウッドデッキ・スチールベンチ、プランター等が楽しく並んでいて、7番から16街区へ取組みが広がっていく様子がよくわかります。借入金を返済して次世代へつなげたいという言葉、次の世代への想いが伝わってきました。子供の頃に、長者町カルタをして遊んだ子供が大きくなって、大学でまちづくりを学んでいて、将来は錦二丁目へ帰ってきたいと言ってくれているそうです。リアルな世界で、まちづくりのエネルギーは響きあって、まちのひとと共に進化しつづけています。(黒野)



❖❖❖ 参加者の感想 ❖❖❖

- ・所属外であるにもかかわらず、勉強させていただきありがとうございます。まちづくりにも関わることがありますので「なるほど」と思うことが多々ありました。今興味をもっていることは音楽や展覧会など「名古屋飛ばし」されないまちづくり、文化的に成熟したまちづくりです。(松田)
- ・錦二丁目エリマネ会社のナゾが少し解けたように思います。今後の活動に注目したいと思いました。ファシリテーターの養成講座について、企画も興味深いと思います。(入谷)



▲喫茶カウンターは内外つながる

- ・大変勉強になりました。夢が広がりました。又おじゃまいたします。今興味をもっていることは、未来社会を考えることです。(古田)
- ・久々の長者町でした。繊維街が変化していてうれしい驚きでした。名畑さんの時間をかけての取組みに感心しました。建物まわりの緑や路地の緑にいやされます。四季の変化も楽しみです。2030年までのロードマップの中間地点に到達したところだそうです。2030年までどのように発展・変化があるのか楽しみです。(奥野)



▲都市の木質化のウッドデッキ



▲自生するアサガオ



▲大学と連携のスチールベンチ



▲ラウンジ・木のキッズスペース

錦二丁目
七番
喫茶スペース



■ 「バルセロナで生活資本を考える」～居住福祉と生活資本の構築(145)

岡本 祥浩

8月の終わりから9月の初めに掛けて3年ぶりにバルセロナでの国際学会に参加することができた。9月7日までに帰国したので、水際対策の緩和の恩恵に預かることはできなかった。おかげで帰国前72時間以内にスペイン国内でPCR検査を受け、陰性である証明証を持参しなければならなかった。この小旅行を通して生活資本を考えてみたい。

今年の渡航は、コストとの闘いであった。例年の2～4倍程度の航空費用が必要であった。コスト面からヨーロッパの航空会社の利用をあきらめたため、ドバイ経由で時間を掛けてバルセロナに到達することになった。また、宿泊代をこれまでと同水準に抑え、そこそこの居住水準を確保するためには郊外に宿泊せざるを得なかった。結果としては正解であったが、空港と会場の建築学部との中間点に宿泊することになった。

毎回のことであるが、時差の影響を緩和することをかねて到着の翌日に会場を確認した。今回はさらにPCR検査の会場確認が加わった。利用できる交通機関は、地下鉄のメトロ、路面電車のトラム、バス、タクシーと多彩であった。公共交通機関共通のカードがあり、相互の乗り換えに不便はない。地下鉄では街の様子が分からないので、街の様子を見たり体感したりするためにトラムを利用した。トラムの終着駅の近くにPCR検査の会場があり、大学までも乗り換えなしで移動しやすかった。何度か利用するうちに街の様子も分かるようになっていった。トラムは風景が見れるので街を理解するには好都合な乗り物である。そのうち、メトロとの乗り換えも理解でき全市的な移動が容易になった。路線図は色とアルファベット・数字で識別しやすく、乗換駅でも表示が統一されていた。

しばらく滞在するとなると、レストランや飲食・雑貨を販売しているところを知る必要がある。滞在地は郊外住宅団地のような所だからショッピングセンターのようなところは分かりやすいだろうと思っていたが、そうでもなかった。外部に向けて商業施設であることをことさらに強調する建物の意匠は最小限に抑えられている。地上階数も低く、地下が深く外部環境への影響を最小限に抑えている。なんとなく複数の施設が立地しているような建物だから入ってみると運よく地域のショッピングセンターだった。最初の利用は、昼下がりで明らかに営業していると分かるのはマクドナルドとケンタッキー・フライド・チキンの二店舗だけだった。あたかもシャッター通りショッピングセンターのようだった。しかしそのうち、結構人の出入りが多いことに気付いた。特に夕方19時を過ぎると家族連れで出かけていた。建物内には様々なスポーツ種目ごとのジムが入店しており、多様な年代の人々がスポーツを楽しんでいた。一度に複数の映画が上映される映画の複合店もあり、日本のモールとの共通点も見られた。昼間はほとんど人がいなかったから何を売っているのか分からなかったが、飲食品から雑貨まで生活必需品を取りそろえた総合スーパーも出店していた。ここの発見で滞在生活は何とかやっていける気がした(次回に続く)。

(中京大学教授、日本居住福祉学会会長、新建会員)

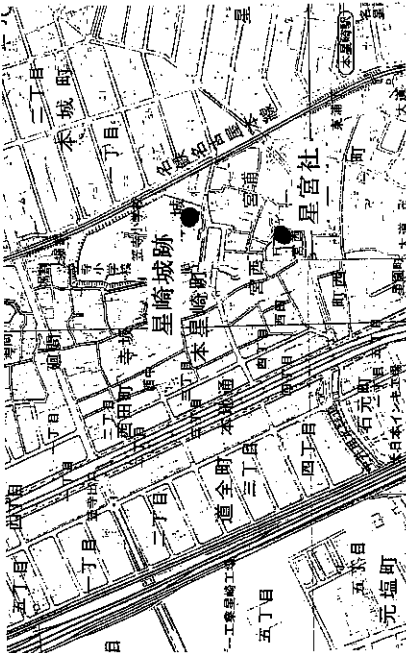
歴史探訪シリーズ⑩ 南区

星崎城跡と星宮社

中世以来の古城、星崎城は、現在ではそのあとかたも見ることはいませんが、笠寺小学校の敷地内にその碑が建てられています。この城の規模は蓬左文庫にある「星崎古城絵図」によれば、東西約350m、南北約450mにおよび南東に天守閣、南に二の丸、三の丸、大手門があり、城の東側には侍屋敷があった。これらが城と一体となつて堀で囲われていました。この城の築かれた時期はわかりませんが、戦国時代末期には織田信長の重臣としてこの地方を治めていた、岡田重善・重孝が城主であつたこともあり、その後、織田方の山口半右衛門重勝が居城をさだめ、次の山口半右衛門重政が天正14年

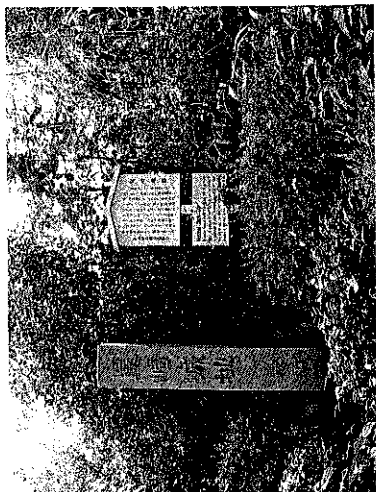
(1586)伊勢国茂福(現在地不明)に移つてから廢城になりました。当時は、尾張東部から三河にかけては織田信長、豊臣秀吉など、戦国の武將が激しく戦つた所であり、戦国時代末期には、この地が交通の要所であると同時に、戦いの上でも重要な役割を果たしてまいりました。

笠寺小学校のやや南には星宮社がありますが、かつては星崎城とともに、この辺り一帯は名古屋台地の最南端であつたことから、ここにある常夜灯は海上交通の灯台の

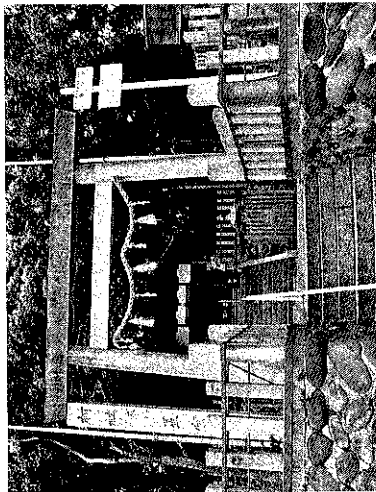


役割を果たしていたといわれています。

それにしても、南区には、星(星宮社)、石(隕石)、塩(塩田)にまつわる話のなんと多いことでしょう。歴史の深さを感じられます。



星崎城跡を示す碑



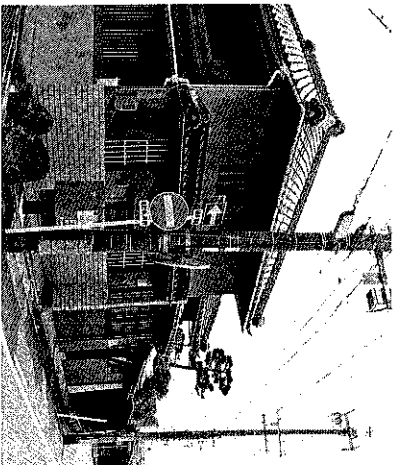
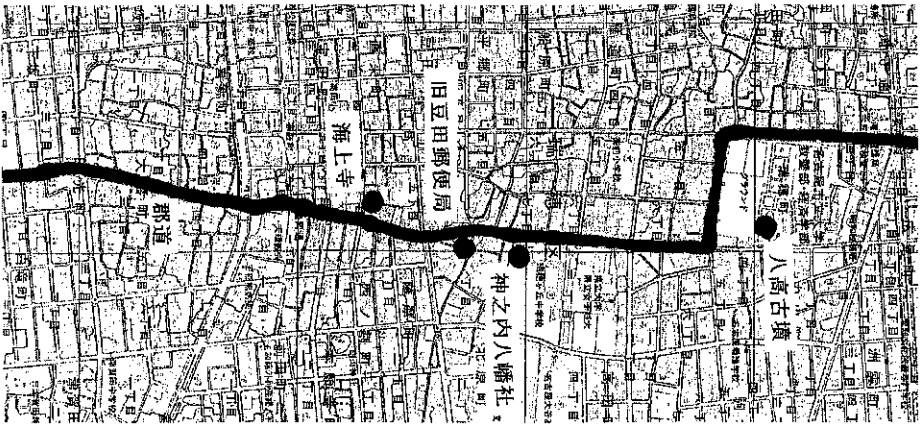
星宮社



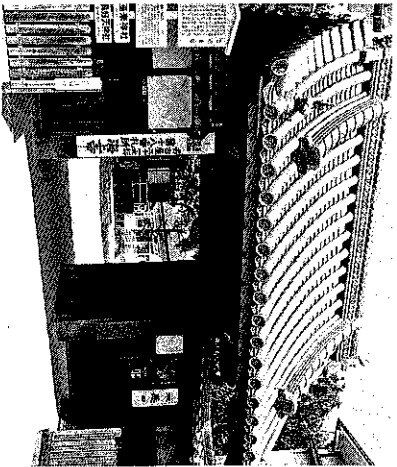
歴史探訪シリーズ⑪ 瑞穂区

歴史の面影を残す「郡道」

瑞穂区に「郡道」と呼ばれ、地域の人達から慕われている道路があります。もともとこの地が愛知郡であったことから、この名が付けられたものですが、正式には千種街道であり、当時の地名で愛知郡呼続町千種から千種町に至る総延長1.5kmの道路です。現在、瑞穂区内では、山崎川にかかると呼続橋から妙音通を越えて高蔵高校(元愛知県立大学)前を過ぎ、名古屋市立大学(元第八高等学校)に沿って左に曲がり、再び右に回って大学を過ぎた所までがこれにあたります。この道は明治末期に始まった耕地整理によって整備されたもので、明治24年の地図には見られませんが、大正9年の名古屋南部の地図には整備された「郡道」が示されています。この道路の沿線には歴史を知る史跡や建物が多く、「ちばなやし」の名で親しまれている海上寺、明治時代の銀行の建物であった旧豆田郵便局、頭痛・歯痛に効果があるという肴盆石(なべいし)を境内に置く神之内(じんのうち)八幡社、八高古墳などです。



旧豆田郵便局



海上寺

現在、この道は都市計画による拡幅の工事が計画されており、やがては郡道と呼ばれる昔の面影が失われるのではないかと懸念されます。

■ 新建愛知支部 2022年8月 支部幹事会だより

8月23日(火) 19:00~21:00(オンライン)

リモート参加者/入谷、奥野、河合、黒野、壬生、甫立

- (1) 茨城セミナーを9月11日(日)~12日(月)で開催予定です。申し込みは、新建 HP から。
- (2) 中部ブロック会議を9月10日(土)石川県の休暇村能登千里浜を現地視察に行きます。
- (3) 中部ブロックセミナーを10月22日(土)~24日(月)に休暇村能登千里浜にて行います。
- (4) 職人不足で困らない為に、共同事業化の組織検討を進める事を決めて、源樹会と連携をします。
- (5) 新建に協力してくれる施工者、職人、各種の営業さん等に声を掛けて、リスト化しています。
- (6) 「防災マニュアル」連絡網を利用して、支部企画、拡大と更に積極的に声掛けをしています。
- (7) 「建まち誌」への50周年祝賀広告を募集しています。支部でまとめて、本部へ連絡をします。

今後の幹事会は、9月20日(火)、10月12日(水)、11月16日(水)午後7時と決めました。

■ 建まちセミナー2022in 茨城の報告 ※新建 HP 上にて、講演動画や資料が見られます。

テーマを豊かさ再構築『原発・新産業都市形成への道が残した今、茨城から日本の未来を展望しよう』と、晴天のなか、9月11日(日)~12日(月)茨城県水戸市にて、3年ぶりに開催しました。

初日は午後から、福岡の片井全国幹事会議長のあいさつに始まり、乾康代さん(代表幹事)による「原発ゼロ社会の議論をはじめよう」、藤本昌也さんによる「“集住空間”のあり様を問い直す」の講演があり、その後の交流会では、久しぶりの集まりとのことで、話題が絶えずに、おおいに盛り上がったようです。

翌日は、大型バスを貸し切りとして、藤本昌也の事務所が設計に関わりました茨城県営会神原アパートや東海村第二原発周辺、岩崎駿介氏の自邸である落日荘の見学をされたようです。(甫立報告)



片井氏挨拶



東海村第二原発周辺



交流会



岩崎駿介氏の自邸「落日荘」見学